正しく見る

鳥取県　海蔵寺住職　安好達憲

お釈迦様は、「八正道」という八つの正しい行いを示されました。その初めの一つが、正しく見ると書く「正見」です。「正見」は、正義や悪といった視点や、自分の立場から離れて、物事をありのままに受け取るという意味です。

仏教の教えにこんな例え話があります。水は、人間である私達が見れば液体の水、飲み物ですが、同じ物を魚が見れば、それは住処(すみか)であり、自身の生きる世界そのものに見えます。また天上界に住む者にとっては、水は瑠璃という綺麗な宝石に見えますが、別の世界では水が喉を焼く炎に見えます。

このように同じものを見ても、見る者の置かれた立場や見方によって、見え方、とらえ方、感じ方は、全く違ってきます。思えば近年世界中で起きている争いや対立は、その多くがお互いの立場での「正義」を掲げて争う「正しさ」の衝突だと言えるのかもしれません。

「正しく見る」とは、一つの価値観からの善か悪かを一旦置いて、さらには自分の立場を離れた無我の視点で、そこに在るものをあるがままに　見る事です。これがお釈迦様の説かれた「正しく見る」という事なのです。

多様な価値観の共存する現在の社会では、事実を正しく見る事は難しい事かもしれません。新聞やニュースでも、同じ事象が少しずつ違うニュアンスの報道になることがあります。またインターネットでは、様々な人が様々な立場から発信する意見や情報が溢れています。

そんな世の中だからこそ、まずは「正しく見る」ことが必要なのです。立場や先入観にとらわれず物事をありのままに受け入れ、そこに真実を見る。そのような事が、お釈迦様の説かれた「正しい生き方」の出発点ではないでしょうか。